

殿ヶ谷重松囃子

瑞穂町無形民俗文化財

所在地：瑞穂町殿ヶ谷



殿ヶ谷地区に囃子が伝わったのは、遅くとも明治の初め頃で、農家相手に着物の染料となる藍玉や柿の灰の買継商をしていた、所沢の古谷重松（重松囃子の創始者）より直接伝授されたと伝えられています。また、

昭島市拝島加美町に残る古文書には、明治5年（1872）に殿ヶ谷囃子連中を招き囃子の指導を受けたという記録が残っており、この頃には既に囃子を習得していたことが分かります。明治期には他地域へ出向くなど盛んでしたが、戦争の影響により一時中断されました。戦後まもなく野崎昭氏や鳥海松次郎氏など青年愛好者十数人により復活の機運が高まり、重松囃子を習得していた地元の井上定吉氏などから指導を受け、昭和21年（1946）4月に殿ヶ谷囃子連が再興されました。昭和21年12月1日、地元阿豆佐味天神社の奉納囃子が初演奏で、その後、須賀神社例大祭や町イベント等で囃子を披露しています。伝承している曲目は、「屋台囃子」「人波（にんば）」「昇殿（しちよめ）」「仕丁面（しちよめ）」「かまくら」「ねんねこ」等です。